

震災対策

仮設住宅用地準備は

9月までに応急機能計画で

問 熊本地震では、仮設住宅の用地が国からの通達があるにもかかわらず、準備が出来ていないために建設が遅れている市町村があるが、黒潮町は大丈夫か。

また、防災上の避難場所になっ

ている集会所の耐震対策は出来ているか。そして住民のよりどころの佐賀庁舎の移転構想はどこまで出来ているか。

答 松本 情報防災課長

通達はあったが、まだ準備が出来ていない。9月までに



議員 岩義 いわよし 藤本 ふじもと

完成予定の黒潮町南海トラフ地震応急機能計画で対応する。

答 松田副町長
佐賀庁舎の高台移転構想は持ち合わせていない。

答 森田 総務課長

旧耐震構造の集会所は町内11カ所ある。高台移転も含め地元と協議して耐震化等を進める。

地域医療

医師との話し合いは

不定期だが実施している

問 佐賀診療所は執行部の努力と聖ヶ丘病院の支援で運営が引き継がれ、住民は安心だが地域医療充実のため、医師との話し合いはしているか。

また、拳ノ川診療所の常勤医を迎える努力をしていると考えるが、その経過と専従の事務を置くなど体制は十分か。

答 矢野 地域住民課長

佐賀診療所は新たに開所したばかりなので、今は診療に専念していただきたと考えて

ている。また、町との話し合いは不定期だが実施している。拳ノ川診療所常勤医対策は、今後町内医師はじめ医療関係機関と調整しながら実施していく。

答 松田 副町長

診療所の業務は現在、専従はしていない。経験のある嘱託職員を配置している。今後業務量も考慮しながら体制を検討する。

情報基盤

AMラジオ

不感地対策は

置局難しい 告知端末で検討

問 佐賀地域はAMラジオが入らない。災害時特に有効な情報手段であるAMラジオについて、いかなる手法が可能か協議して行くとのことだが、その状況は。

答 松本 情報防災課長

放送事業者と交渉を行ってきたが、新たな置局は今後も予定がないとのことだった。NHKとはしていないので、今後、状況を探りながら調査をしていく。また、告知端末への再放送は予算が難しいが、災害時の有効な情報手段として整備したいと考えている。

【その他の質問】
※町史について



5月16日開所した佐賀診療所
住民が安心する地域医療が望まれる